

1-9		主題	従来型施設で理想とするユニット的ケアをめざして	
ケアの質の向上		副題	理想とするユニット的ケアって？	
ユニット的ケア				
研究期間	36ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム 菊かおる園	
発表者：宇井 美佐子（うい みさこ）			アドバイザー：	
共同研究者：穴吹 峰章				
電 話	03-3576-2266	メール	kiku@toshimaj.or.jp	
FAX	03-3576-2264	URL	http://www.toshimaj.or.jp	

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	菊かおる園は豊島区西巣鴨の閑静な住宅街の中に位置する100床の特別養護老人ホームです。デイサービス、地域包括支援センター、ケアハウス棟を併設し近隣にはとげぬき地蔵尊で有名な地蔵通り商店街があります。
------------------------------	---

《研究前の状況と課題》

2008年度アクティブ福祉 in 東京で経過3年目の取組みとして発表を行った。その際最終目的として提示されたのは以下の項目であった。

- ・利用者さんが望む今以上の個別ケアを探し対応する。
 - ・利用者さんの持っている能力を最大限に活かす。
- “これまでは職員主導で利用者さんに提案してきたことを行ったが今後は、もっと利用者さんがとご家族が何でも言え、それを実行していくことを目指す!”

前回の発表より3年間、ゆるやかな進化があるものの振り返りがなく、流れが出来てしまい現状が当たり前となりマンネリ化につながっている。

《研究の目標と期待する成果》

菊かおる園でのユニット的ケアの取り組みは“小さい範囲だからこそ出来ること”を軸として継続されてきた。

今回の取り組みの目標は、利用者さんの能力を最大限に活かし個別のケアを行うにあたり、ケアワーカーだけでなく他職種との連携、ご家族とのコミュニケーションの必要性であり、利用者さん、ご家族、職員が目線を合わせくつろいだ雰囲気の中で話し合う環境作りを行うこと”であった。

取り組みの中から利用者さん、ご家族双方の声なき声を拾い上げていくことを期待する。

《具体的な取り組みの内容》

- ① ユニットごとの利用者懇談会を行う
 - ・普段と違う雰囲気での懇談会。
 - ・利用者さんの意見、要望を伺う。
- ② ユニット活動日をシフトに組み込む
 - ・日常の会話の中から利用者さんの要望を把握して活動日に実施する。
- ③ ユニットごとのグループレクリエーションを行う。
 - ・ユニットの特性に合わせた機能訓練。
 - ・他職種共同。
- ④ ファミリー会の開催
 - ・ご家族同士の意見交換。
 - ・ユニットごとの活動報告。
- ⑤ 顔の見えるサービスへの取り組み
 - ・職員が自信と責任を持って行えるサービス提供。
 - ・利用者さんにご家族がスムーズにコミュニケーションをとれる様に職員の顔写真を掲示。

《取り組みの結果と評価》

- ① ・ゆっくりとした時間を共有し利用者さんが話しやすい環境ができた。
 - ・担当利用者さんとの会話が増えそこから本人の気持ちを引き出すことが出来た。
- ② ・通常業務の中で実施できないことが可能となった。
 - ・活動日にユニット職員が出勤し対応出来た。
 - ・ユニット職員間でのコミュニケーションが多くなった。
- ③ ・ユニット職員が主体となってリハビリとの連携を行えた。
 - ・個別にあわせた残存機能維持方法が発見できた。
- ④ ・行事などご家族も参加できる雰囲気が出来た。
 - ・ご家族との距離が縮まった。
- ⑤ ・利用者さんにご家族が安心して職員に頼みごとが出来る雰囲気作りが出来た。

《まとめ》

ユニット的ケアの最大のメリットは“職員個々が創意工夫を持って仕事に取り組む”ことである。結果として利用者さんへの質の高いサービス提供の継続となっていき全職員で現状を把握することで改善へと向け取り組みを行うきっかけとなった。

《提案と発信》

長年に渡り“ユニット的ケアの発展”に取り組んできた、その間人員配置上の様々な問題やマンネリ化など解決すべき課題が多々あった。しかしその都度試行錯誤をして従来型ケアへ戻る事無く進んできたのは、“中心に利用者がある”という全職員間の意識統一があったからだと思われる。ユニット的ケアが付加価値として与えたものは職員個々の能力を最大限に活かし意欲的に業務に取り組む姿勢であった。

【メモ欄】